

# 夢の残照 特別興行編

出演 水月晶 & 星野美樹

あきら 「あきら」と

みき 「みきの『夢の残照・特別興行編』をお送りしまあ〜すっ!」

あきら 「……で、なんでまたこんなラジオ番組みたいな構成で始まったわけ?」

みき 「大人の事情ってやつですよ……と言いたいところだけど、まあいつも通り作者さんのネタ切れ」

あきら 「また馬鹿正直にぶっちゃけたわね……」

みき 「いつも通りペーパーを作ろうと思ったけど、ネタ切れで名案思い浮かばず、コミケ一日目で並んでいる最中も悩んでいたみたいだよ」

あきら 「それでこんな形式にしたの?」

みき 「形式はある意味いつも通りだけど、わたしたち以外出ないから」

あきら 「そういうえは、シルフィードさんとカレンの姿は見えないわね」

みき 「ま、正直な話、ネタに困った作者さんがコミケで手に入れた某ゲームの紙上ラジオ番組のパロディだから、これ」

あきら 「ああ……あのゲームね……」

みき 「で、縦二列で配置されていた地雷を連続踏みして2つた作者さんがコントローラを画面に投げつけようとしたゲーム」

あきら 「……連が悪いというか、存在自体がネタというか……相変わらずね、あの作者は……」

みき 「おっと、作者さんの悪口はそこまでだよ!! でもまあ、いいんじゃない? ちょうどキャラも似た感じだ」

あきら 「あたしはあんなツンデレキャラじゃないわよ!」

みき 「……でも、どっちのキャラを指しているかの自覚はあるんだね……そお? 背はともかく胸な……」

あきら 「あらあら、二二に運良く雑刀が転がっているわね……これの切れ味を試してみようかしら?」

あきら 「……当然アンタで」

みき 「そ、そんなので斬られたら大怪我じゃ済まないから、やめて……」

あきら 「大丈夫よ、この雑刀、逆刃になっているから、これの峰打ちで勘弁してあげるわ」

みき 「そういうお約束はやめてよ! 普通に斬れるから! それ!」

あきら 「ともかく、今回の内容やらあのボンクラ作者の次回予定とか、近状とか……でも話せばいいのかしらね?」

みき 「それでいいんじゃないのかなあ?」

あきら 「では、改めて……今回は夢の残照第六〜八話までをまとめてお送りしましたが、これは当初第六話三編という扱いでした」

みき 「今回のイベント一週間前になってから、急に『分割要請』が出されて作者さんが半泣きしながら各話のタイトルを考えていたよなえ〜」

あきら 「結局、それは何とか間に合ったんだけど、今度は『あらすじ&登場人物紹介追加要請』がイベント二日前になって出されるといふ展開が待っていたけど……」

みき 「で、間に合いそうなの? その『あらすじ』と『登場人物紹介』は」

あきら 「いま、この脚本書き下ろしながら平行作業中らしいわ、本当に間に合うか『神のみぞ知る〜』って歌ってただけ」

みき 「あはははは……作者さんらしい……」

あきら 「じゃあ、せっかくだから各話の簡単な解説でも……」

みき 「まずは第六話……って、わたしは出てないから、晶よろしく」

あきら 「このお話はあたしが夢の世界で目覚めてからの話になっているけど……まさか、うちの両親まで出てくるなんて、計算外だったわ……」

みき 「いいじゃない、あんな楽しそうな両親なんだから。恥ずかしいところなんてないでしょ?」

あきら 「いや、『あんな楽しそうな』って形容されている時点で十分恥ずかしいから!」

みき 「『愉快そうな』とまでは言わなかったんだから、いいじゃない?」

あきら 「……さっきの雑刀はどこに行ったかしら……」

みき 「さ、さあて、つ、次のお話、第七話に行きましょう!」

あきら 「第七話は、あたしが目覚めた次の日からのお話だけど……まさかあそこまで大騒ぎになっていたとはね……」

みき 「わたしは気楽だったよ、学校休みだったし」

あきら 「……アンタ、あたしの心配はしなかったの……?」

みき 「心配……?」

あきら 「マテ、何故そこを疑問型で返す……?」

みき 「殺しても死ななそうな晶を心配する方がコストが高……あいたっ!」

## SE: 台詞の間に打撃音

あきら 「雑刀で殴らなかつただけマシと思いなさい。さ、第八話は……」

みき 「……どーしたの?」

あきら 「えらく時間が掛かった割りに、超展開尽くしになっている気がするんだけど……」

みき 「この話……」

みき 「これでも大部分を何度も書き直したんだけど……どうにもこの追いつかなかった見たんだよ。いろいろなものが……ね」

あきら 「しかも、最後の最後でまた何かが登場しているし……本当に第九話以降からの最終回シリーズで終わらせられるのかしら?」

みき 「これ以上ブレなきゃ大丈夫じゃないのかな? 世間ではブレは流行りみたいだから」

あきら 「あんなもん、流行ってどうするのよ!」

みき 「お偉いさんを笑い飛ばして楽しむ、現代日本人における後ろ暗い集団娯楽」

あきら 「……世も末ね……」

みき 「まあ、とりあえず、これで各話の小話は出来たかな……?」

あきら 「断片を取り出しただけでも言うけど……」

みき 「まだ読んでいない人もいるだろうから仕様が無いところだけだね」

あきら「で、次回は……夢の残照第九話……になるのかしら？」

みき「絵描きさんの都合上、別作品になる可能性もあるって聞いたけど？」

あきら「『天使工房』と『熾恋』だけっけ？ 最近作業しているのは」

みき「どちらもタイトルだけ先行公開しているけど、中身の進捗は『天使工房』の方が進んでいるかな？」

あきら「というか、さっさと残照書き終えてからやればいいの？」

みき「最近残照を書くのが辛くなって行っていたけど……」

あきら「なによ、その無責任発言は」

みき「今回の第八話も相当難産だったしねえ……」

あきら「難産なのは去年作業していた『Emergency』だって変わらなかつたでしょうが」

みき「いや、あれは二次創作だったからいろいろと逃げられたところが多かったけど、オリジナル作品はね……」

あきら「そうは言っても残照の続きが出ないとあたしたちの出番もないのはどうするのよ？」

みき「……（特別興行）で頑張るとか？」

あきら「真つ当に視聴者がいるかどうか怪しいラジオ番組で何をしろというのよ!？」

みき「頑張れば人気出るかもしれないよ？」

あきら「……で人気になっても全然嬉しくないからっ」

みき「まあまあ、そういわずに。ところで難産と言えば、別作品も登場人物の名前で苦労しているみたいだよ」

あきら「残照なんて第一話であたしたちの名前すら出なかつたしね……」

みき「実は美琴ちゃんの名前を除けば、最初に決まっていたのはわたしの名前だったんだよね」

あきら「まったく、サブキャラの癖に生意気よね……美樹は……」

みき「せつかくだからみんなの名前の由来を暴露しちゃいますかね」

あきら「美樹って名前の方は特に由来が無く、名字の方は天文部部长だから……って理由だったんだっけ？」

みき「そうだよ。で、『晶』の名前だけど、今は亡き、とあるブランドのゲーム出てきたヒロインの名前からだよ」

あきら「……め、命名元がなくなっていると気がなるわね……水月の名字は何からなのかしら？」

みき「わたしの名前が星野って決まっていたからそれに併せて月、そして水晶と組み合わせさせて」

あきら「水月 晶……としたらいいよ」

みき「どういふことは、レンの名字『東陽』は太陽からとったわけね……」

あきら「そういふこと」

みき「レンの本名『煉夜』と美琴ちゃん・命の名前は、原案を貰った桐芽さんの設定からだったし……千鶴先生は？」

みき「名字は適当らしいけど、名前の『千鶴』は当時読んでいた漫画のヒロインからだったはず」

あきら「そのヒロインも千鶴先生みたいな人なのかしら？」

みき「保険医という職業はあっているけど、身長性格は完全に真逆だったよ」

あきら「……一体どういふ基準で決めたのかしら……あいつ……」

みき「……」  
みき「……その新劇場版と違って登場人物の名前が突然変わるようなことはないだろうし、残照は新装版が出てそのままだろうねえ」

あきら「いや、あの作者は『天使工房』のヒロインの名前を変更していたじゃない」

みき「あれはしょうがないよ。反対意見が多かつたんだし……」

あきら「当初の名前があまりにも駄目駄目だったというところなんだから、次からはしっかりしてもいいわ」

みき「わたしはこの名前が気に入っているからいいけどねえ」

あきら「あたしは名字の『水月』がちょっと……」

みき「ん？ どうして？」

あきら「大抵の人は『すいげつ』って読むし、Windowsだと変換出来ないし……」

みき「駄目ね、日本人だからAOKを使うのが正義なのよ！」

あきら「……多分、殆どの人はAOKなんて分らないから……」

みき「とりあえず、作品の話はこのくらいにして……次のコーナーに行ってみましょう」

あきら「これっぽっちも解説にも予告にもなっていないのはどうなのかしらね……」

みき「いいのいいの、さて次は作者の近状コーナーです」

あきら「作者の近状って……そんなこと聞いても嬉しい人いるのかしら？」

みき「さあ、まあペーパー兼紙ラジオとしては要件を満たしているんじゃない？」

あきら「最近の作者は……某ネットゲームをやっていたような……って、まだ続けているのか、あの作者」

みき「まあ、昔よりログインの頻度は下がっているらしいけど、最近スロット追加されたから魔術師を作っていたみたいだよ」

あきら「ほんと、飽きないわね……」

みき「ネットゲーム以外だと、『Emergency』の元となった作品の去年発売されたFDをようやく封印解除したとか……」

あきら「そのFDについては最後の最後まで情報封鎖していたものね……」

みき「ちなみにヒロイン一人だけやってお蔵入りらしいけど、どのキャラだったかは言つまでもないねえ」

あきら「……」

みき「で、他にもゲームをやっていたみたいだけど、一つはBダンジョン、もう一つは『この番組の元ネタ作品』

あきら「どちらもクリアしていなかったわね、確か」

みき「片方は後半になって急に難易度が上がったので放置、もう一つも今回のイベントに向けての作業が入って放置気味になっているみたいだよ」

あきら「ところでゲーム以外に話題はないのかしら？」

みき「えーっと……ゲーム以外だと、『威沙』の改良作業をやっているみたい」

あきら「あたしには何のことだかよく分からないけど、ウニコード対応とかAI自動生成とか……」

みき「ウニコードはなぐてU、NIはなぐてN……爆弾作つてどーすんの？」

あきら「あ、あたしは美樹と違って、コンピュータには詳しくないのよっ……」

みき「コンピュータでいうところというレベルじゃないような気がするけど……」

あきら「と、ともかく！ そういう機能を追加しているよっ……」

みき「そう、特に今回出したB5版二段組みの本は開発中のバージョンを使って作成されているんだよ」

